

＼ 豊中のこと教えてください！

転勤者の皆さんに聞いてみました！

豊中市の千里文化センター「コラボ」。ここでは、転勤で引っ越してきた方々が集まり、日常の相談事から、気軽な地域の話まで、誰でも参加できて何でも語り合える「転勤族カフェ」が開催されています。参加者のお子さんの賑やかな声が響くなか、お話を伺ってみました。



転勤者が多く暮らす街、豊中

引っ越しにあたっては、多くの方が職場など知り合いからの口コミや、WEBで情報を集めています。それでも、知り合いがない、子どもが学校になじめるかなど、新しい土地での暮らしには心配事がつきません。そんなときに、同じような悩みを抱え、乗り越えてきた先輩がたくさんまわりに住んでいることは安心感につながります。豊中での暮らしは、「いろんな土地から来た人がいるので、有名な“関西弁”のことも含めて、無理に合わせる必要がないのがいい」と、ほっとする声が多く聞こえます。「子ども、なじむのがすごく早かったです。周囲に転校生が多いので、受け入れられやすい土壌があるんだと思います」。



のびのび、安心の子育て

子育ての環境は、小さい子どもがいる転勤者にとって大きな関心事。全国各地での生活経験が豊富な参加者の皆さんは、各都市の子育て支援制度にも精通されています。「雨の日でも子どもたちが気軽に立ち寄れる児童施設がもっとあれば」、「子どもへの医療費助成の充実を」など、以前に住んでいた都市と比較したご意見も聞かれました。また、子ども園にスムーズに入れるかどうかは、どの都市に行っても切実な問題です。それでも、「気軽に立ち寄れる子育て支援センターや公民館、図書館が近くにある」、「子どもを対象にした催しや行事が多い」、「公園がたくさんある。緑も多く、いつも子どもたちと近くの大公園に出かけます」といった点を含め、豊中は「子どもたちがのびのび遊ぶことができ、安心して子育てできる」という声が多く聞かれました。立地や交通の便がよく、近隣都市の公園やアミューズメント施設にもよく出かけているそうです。子育ての話題は豊中の教育へも。「豊中は教育に熱心な土地だなと思います」。子育てや教育に関して自分なりのしっかりとした考え方を持っている方が多くて、自分の子育てにもプラスになると話す人もいます。



出会いとつながりの場

学校などで自然と仲良くなる子どもたちとは違い、大人同士がつながりを築く機会は、日常の暮らしの中で多くはありません。「自分から動く」。参加者の多くが口にした言葉です。「とにかく外に出て歩き回った」、「自分から人に声をかけるようにした」など、新しい土地に溶け込む努力を続けたと言います。それでも、なかなかきっかけがつかめず、また、何度も転勤を繰り返すがゆえにその土地に深く根を張るような積極的な関わりができないといった不安な気持ちや辛さを明かしてくれました。転勤族カフェはそうした不安を和らげてくれる場所のひとつ。おしゃべりをしたり、子育てなどの悩みを相談したり、皆さん、ここで知り合いの輪が広がったといいます。「赤ちゃん連れでもゆっくりできるし、買い物ついでに気軽に立ち寄れるのもいいですね」。ここで出会いをきっかけに、徐々に気持ちが前向きになったという参加者も多いようです。



転勤族カフェだけでなく、ここ「コラボ」では、市民実行委員会が講座の企画や喫茶店の運営、屋上庭園の管理など、様々な事業を企画、運営しています。こうした盛んな市民活動も豊中の特徴のひとつ。市内の南部地域には、「南部コラボ」開設の計画が進行中です。また、豊中駅前には、市民公益活動など、主体的に活動に関わってみたいという方々をサポートする市民活動情報サロンも設置されています。

同じ悩みや思いを共有する人がまわりにいる安心感。豊中は転勤者の皆さんにとって、安心して暮らせる街です。多くの方が、転勤による不安な気持ちや辛さを抱えながらも、前を向いて豊中での新しい暮らしを始めています。

千里文化センター「コラボ」 転勤族カフェ

「コラボ」の事業を企画・運営する千里文化センター市民実行委員会が主催。転勤者が多い千里ニュータウンの地域特性を活かし、平成24年からスタート。市の千里地域連携センターがサポートしています。「転勤者あるある話」で盛り上がり、先輩転勤者から、買物や病院など暮らしに欠かせない生活情報を教えてもらったり、悩みを分かち合い、新しい仲間づくりに心強い集まりです。



原則、毎月第2金曜日に開催。予約不要。性別や年齢を問わず、自由に何でも参加できます。開催日時は広報とよなか、とよふあみで確認か、下記へ問合せを。

千里文化センター「コラボ」 住所 豊中市新千里東町1-2-2 電話 06-6831-4133